

多摩市

【児童・生徒数】
9,867名

【学校数】
17校

【多摩市の特色】

- ・公園が多数あり、緑豊かな自然環境に恵まれている。
- ・近隣の企業や大学等と連携が取りやすい環境にある。



【課題・改善】

○日々の体育授業に加え、運動の機会を設けたり、多種多様な運動やスポーツを紹介したりするなど、年間を通じて運動習慣定着のためのきっかけづくり（運動することの楽しさを味わわせること）はできた。今後は本取組を一過性のイベント的な取組にせず、個々の運動習慣の確立に向けた取組を継続させていくことが課題である。

⇒今後は児童がすすんで運動に取り組めるように、児童の遊びに着目し、体力向上につながる校庭遊具を活用した運動遊びの動画を作成して一人1台端末で紹介していく。

目標

- 「運動やスポーツをすることが好きな児童の割合の増加」
- 「運動やスポーツをする機会の増加」

【成果】

- 市独自で年3回実施（5月・11月・2月）した『運動・スポーツアンケート』の結果、以下①、②において、運動習慣に関わる有意な変化が見られた。（令和4年5月比）
 - ①「運動やスポーツが好き」の理由
「友達と一緒にできる」（4ポイント増）
結果：男子82%、女子77%
 - ②「習い事ではなく運動やスポーツをする」人（誰と）、場所（どこで）
「同じ学校の友達」（5ポイント増）
「公園や学校」（7ポイント増）
- 「親子スポーツ体験の取組」での参加者100名以上、事後アンケートでは「またやりたい・楽しかった」と回答した参加者100%

【実態・課題】

○令和4年度東京都統一体力テストよりコロナ禍にあっても児童の体力はある程度維持されていると捉えているが、運動習慣に関して、コロナ禍以前の令和元年度と比較すると、運動やスポーツをする時間は減少傾向にある。

⇒児童の運動・スポーツへの興味・関心を高めるため、多種多様な運動・スポーツに触れる機会を創出し、運動習慣定着のための一助としていくことが課題である。

【取組】

- 授業（体育科）の取組
 - ・近隣の大学と連携した「走り方教室」、トップアスリートによる特別授業を実施
 - ・東京ヴェルディと連携した「ブラインドサッカー」の授業を実施
 - ・読売ジャイアンツと連携した「投げ方教室」の授業を実施
- 放課後活動の取組
 - ・国士舘大学と連携した放課後の部活動「enjoy!スポーツ部」を10月から実施
- 親子スポーツ体験の取組
 - ・保護者参加型のスポーツ体験を実施

【取組（詳細）】

○ スポーツ関係機関との連携した取組の充実

- ・近隣の大学（国士舘大学・多摩大学）から、北京オリンピック出場のモーグル選手（第4～6学年）、日本選手権・国体出場の陸上砲丸投げ選手（第1、3学年）、ユース日本代表に選ばれた女子ハンドボール選手による特別授業（第2学年）、読売ジャイアンツ（第3学年）や東京ヴェルディ（第3学年）、国士舘大学の学生によるスポーツ教室（体育授業：全学年）を実施した。
- ・各選手の卓越した技能を目の当たりにしたり、夢の実現のため、切磋琢磨されてきた話を聞いたりした児童は、スポーツへの興味・関心及び、運動意欲を高めた。



「講演・実演：キャリア教育」
プロの陸上選手（砲丸投げ）の力！

○ 放課後の部活動における運動習慣の定着を図る取組の充実



「部活動（enjoy!スポーツ部）」
大学生のお姉さんお兄さんとベースボール型！

- ・国士舘大学から学生を招聘し、10月以降12回、4年生以上の希望児童を対象として、放課後45分間、様々な運動に親しむ機会を設けた。
- ・ソフトバレーボール、ハードル走、ポッチャ、走り幅跳び、走り高跳び、ベースボール型、サッカー、バスケットボールの8種目を取り上げ、主に体育科で学習している運動と時期を合わせて実施した。

○ 親子スポーツ体験における多様な運動機会の創出

- ・11月の土曜日、学校公開日後に希望親子を対象としたスポーツ体験（全学年）を実施した。親子と一緒にスポーツを楽しむ機会を創出することで、家庭や地域において児童が継続して運動に取り組む契機となることを期待した。
- ・児童も大人も一緒にスポーツを楽しめるように、以下の8種目から各自、好きな運動・スポーツを選び、自分で決めた順番で体験した。

【実施種目】（校庭・教室等で実施）

- ・アスリートヨガ
- ・アルティメット
- ・しっぽとり
- ・ディスクゴルフ
- ・ポッチャ
- ・リズムジャンプ（バンブー）
- ・ゴム跳び
- ・チームジャンプ



「親子スポーツ体験」
親子でヨガ！